

# 行動科学 1 b

【単位数: 1単位, 授業13コマ(定期試験含まず)】

## 1 科目責任者

宮本 淳 教授(心理学)

## 2 教育目標

### (1) ねらい(I-2-c, I-5-c, II-2-c)

- ① コンピテンスの“プロフェッショナリズム”における「他者の多様な価値観を尊重できる」ための感性の涵養を図るために行動の心理学的理解について学び、「支持的・共感的なコミュニケーション」についての見識を深める。
- ② 行動の心理学的理解として、行動変容技法、心理行動アセスメント、ライフサイクルと発達課題についての基本的な知識を身につけ、医用心理学で学んだ知識とともに、患者や家族の心理・社会的背景を理解するための視野を広げる。

### (2) 学修目標

- ① 学習と行動変容における基本的な理論を説明できる。
- ② 個人差について、パーソナリティの類型と特性、知能、発達の視点から説明できる。
- ③ 行動の心理学的測定法について説明できる。
- ④ ライフサイクルの各段階におけるこころの発達と発達課題を概説できる。

## 3 成績の判定・評価

### (1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
定期試験	○	75%	多肢選択問題を原則とし、一部記述式問題を含む場合がある。
復習課題	○	25%	学習内容の定着・応用のための復習課題をAIDLE-Kにて毎回行う。
態度	○	—	受講態度が著しく不良の場合は、10点を限度に減点する。

出席：定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

### (2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

### (3) 再試験・再評価の方法

定期試験に準ずる再試験を行う。評価対象の合計が60%以上で合格とする。

### (4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

試験で正答率の低かった問題、理解が不十分と思われた問題についてはAIDLE-Kに掲載する。

これにて理解が不十分な項目について再確認を促すとともに、定期試験で不合格となった者は再試験に備える。

## 4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
資料・レジュメ配付			

## 5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
医療系のための心理学	樋村正美 野村俊明	講談社	医療に関係した心理学の基礎知識がまとめた「心理学」のテキストである。
ライフサイクルの臨床心理学	馬場礼子 永井 撤 (共編)	培風館	ライフサイクルごとの発達課題や病理の特徴について、具体的な事例も含めてわかりやすくまとめられている。
行動医学テキスト	日本行動 医学会	中外医学社	医学教育カリキュラムに準拠し行動科学を網羅した良書

## 6 準備学習（予習・復習）

- ① 予習として、授業に臨むにあたり、参考図書などにて次回内容のキーワードについて簡単な知識を得ておくこと（1コマあたり約1時間）。
- ② 復習として、配付された資料・レジュメを参照し、講義後に内容を再確認しておくこと（1コマあたり約1時間）。

## 7 授業計画

### （1） 講義の方法

基本的に大教室での知識伝達型の講義であるが、講義中、一部、小グループ討論などのアクティブラーニングを導入する。

### （2） 講義の内容

基本的な知識について講義を通して学ぶことに加えて、行動変容技法・心理行動アセスメントでは体験的な学びを、行動とライフサイクルでは、クリッカーやフィードバックを用いた双方向型授業を行うことで自己理解と他者理解を深めていく。